

ママと子どもの
言葉の力を育む講座

③

Language Training for
Mom and children

講師 Mariko

3. 好奇心を育てる

今月の課題 問う力を養う

なにかをするときに理由をつける習慣を身につけましょう

ex.今日の服はズボンにする。なぜかというと公園に行くため動きやすい服がよいから。

ex.今日のご飯はカレーにする。なぜかというと玉ねぎとじゃがいもがあるから

ex.今日は駅前のスーパーに行く。なぜかというとお肉が安いとチラシが入っていたから

理由をつける思考訓練5つ

生活で起こった実体験から発表してください

なぜ理由をつけるといいのか

- ・ 語彙が増える
- ・ 想像力がわく
- ・ 自分で考えられるようになる（自主的に行動）

※反対に理由をつけない言い方にすると**思考停止**をうむ

クイックレスポンスを体験してみよう！

あなたは〇〇が好きですか？

はい か いいえでお答えください。

そしてその理由を3つあげてください。

クイックレスポンスを体験してみよう！

あなたは〇〇が好きですか？

はい か いいえでお答えください。

そしてその理由を3つあげてください。

好奇心の3タイプ

① 拡散的好奇心

いろいろな方向に発生する知りたい！という欲求

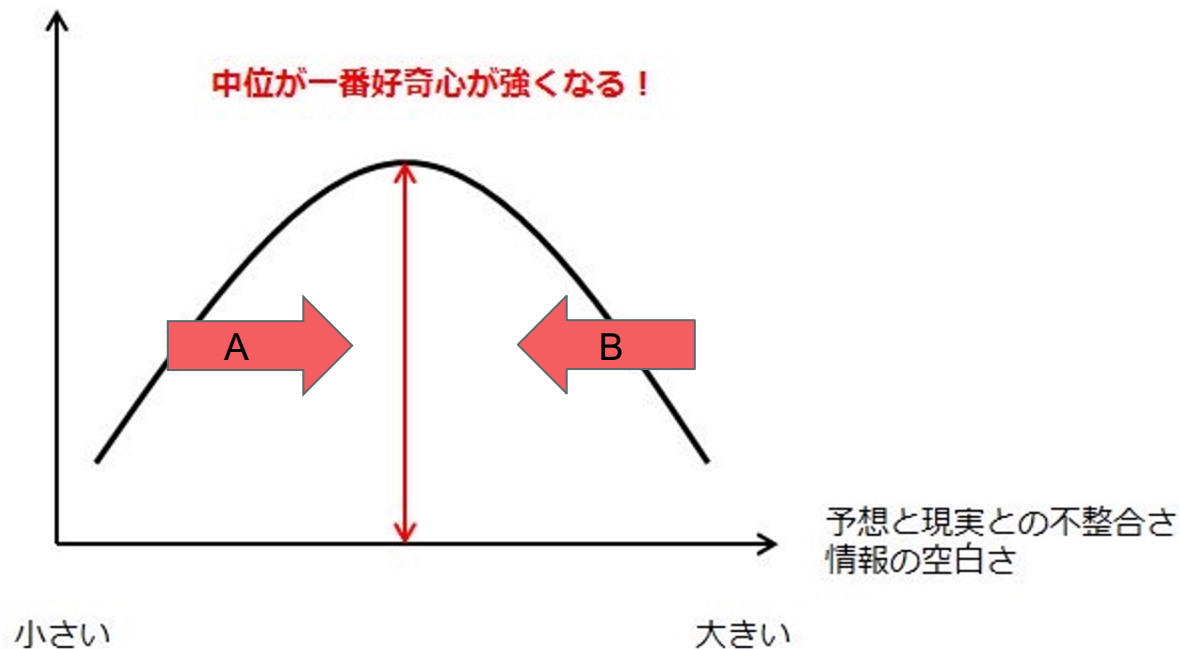
② 知的好奇心→学習と深く結びついている

知識と理解を深めたいという欲求

③ 共感的好奇心

他者の考えや感情を知りたいという欲求

好奇心の強さ



A : わかるまでの過程を楽しむ

なぞなぞ形式にする

答えをすぐ教えない

深掘りする

B : わからないことをわかりやすく
する

子どものなぜに向き合う

一緒に調べてわかっていく環境を作る

親がいろんなことにアンテナをはる

『子どもは40000回質問をする』イアン・レズリー著

好奇心を育てるために親ができること

考えてみましょう

好奇心を育てるために親ができること

- ・ 子どもをよく観察して何に興味をもっているか知る
- ・ 子どもの好奇心を広げる会話をこころがける
- ・ 親が好奇心を持ちワクワクすること
- ・ 調べて学び、知る楽しみを共有する
- ・ 違いを楽しむ、違和感を楽しむ。無知の知。
- ・ 答えを教えるのではなくプロセスを楽しむ
- ・ 体験、経験、五感で脳を刺激し、好奇心をわかせる
- ・

2012年のOECD（経済協力開発機構）による成人（16～65歳）を対象とした調査では、日本の学力は数的思考力などで世界トップクラスである一方、新しいことを学ぼうという意欲は低いことがわかりました。なんと日本の20歳の好奇心は、スウェーデンの65歳並みだそうです。

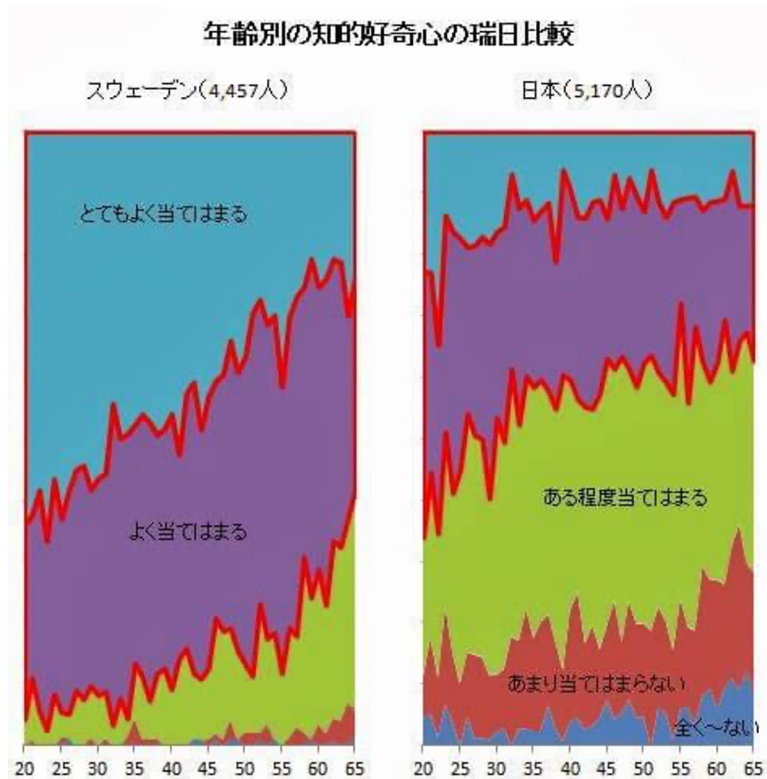
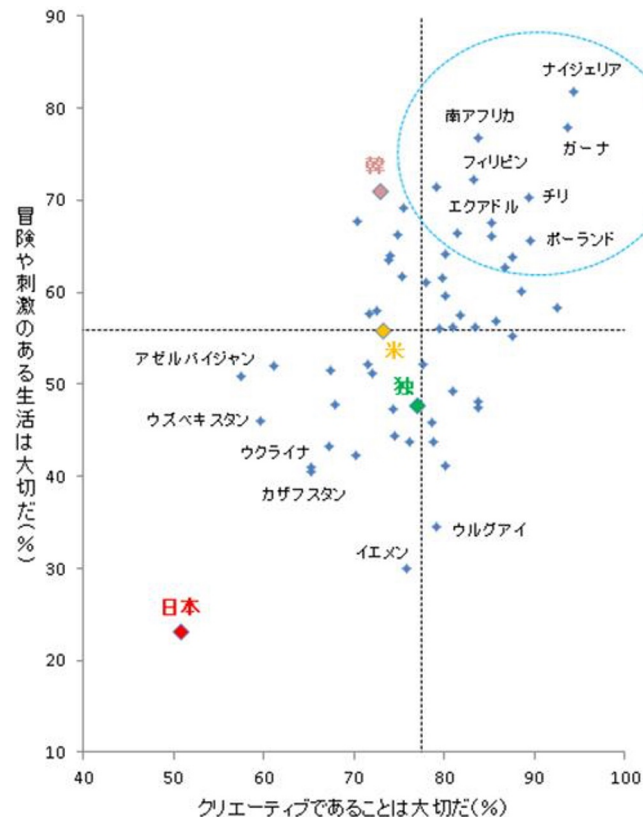
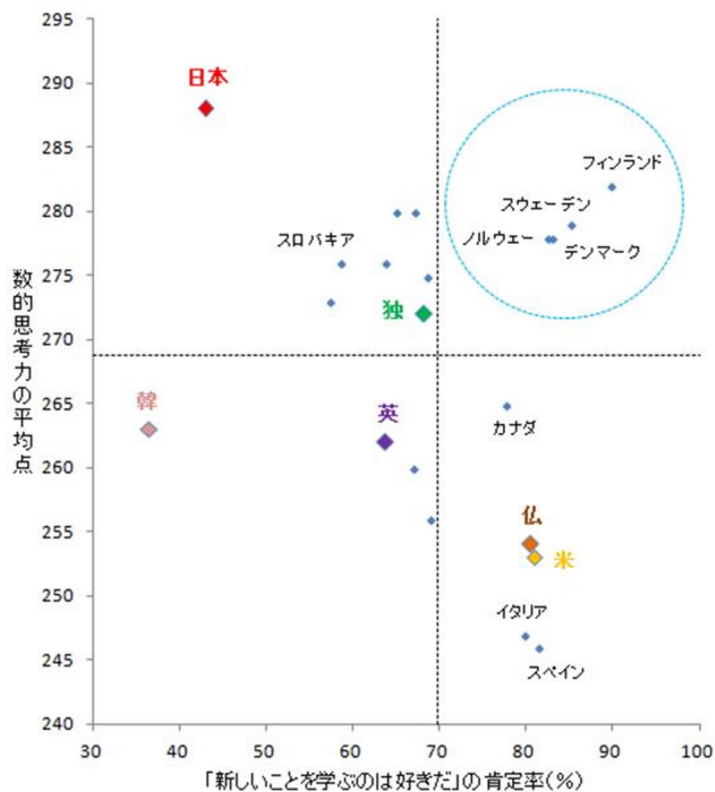


図2 20代のクリエイティブ・冒険志向



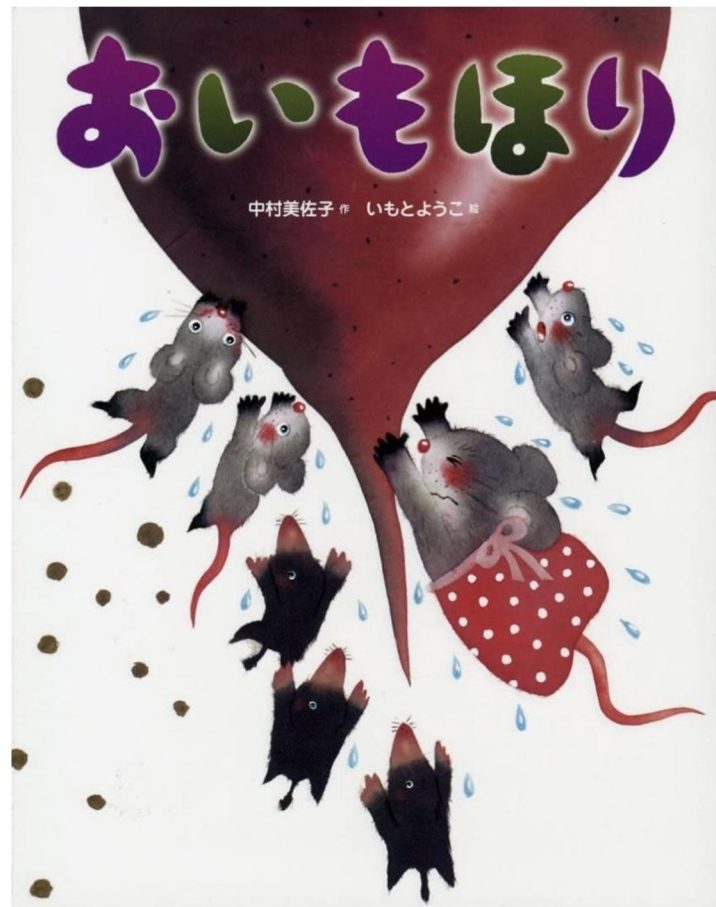
* 点線は、59か国の平均値である。
* 『世界価値観調査』(2010-14)より筆者作成。

図1 成人の知的的好奇心と数的思考力



* 16~65歳の回答。点線は、21か国の平均値である。
* 横軸は、「とても当てはまる」+「当てはまる」の比率。
* OECD『PIAAC 2012』より筆者作成。

今月の絵本



今月のリトミック

<https://youtu.be/3H0vFswbl3o>

『やきいもグーチャーパー』